

米国財務会計基準審議会御中

(社) 日本証券アナリスト協会
企業会計研究会

公開草案「金融商品」についての意見書

日本証券アナリスト協会の企業会計研究会は、表記公開草案に対して意見書を提出する。日本証券アナリスト協会はアナリスト教育試験制度を運営する非営利法人で、24,000名の検定会員を擁する。企業会計研究会は当協会の常設委員会で、アナリスト、ポートフォリオマネジャー、公認会計士、学識経験者を含む14名の委員で構成され、国際会計基準審議会（以下IASB）や企業会計基準委員会（以下ASBJ）の公開草案に対して意見を表明すると共に、ASBJや金融庁と意見交換をしている。

金融商品のデフォルト測定属性（質問13）

当研究会は金融商品のデフォルト測定属性を公正価値にすべきとは考えておらず、IASBが提案するような金融商品の保有目的を勘案して異なった測定属性を採用する混合属性モデルを支持している。この理由は、売却益獲得を目的とせず、また満期まで、または長期間保有することが確実な金融商品の価格変動をその都度認識するのは、純利益または累積その他包括利益に不必要な変動をもたらす弊害が大きいと考えるからである。企業分析上、時価情報が有意な場合があるが、それは注記で示すことで十分である。

当協会では本年6月に、全会員を対象にした会計についての包括的なアンケート調査を5年ぶりに行った。この中で、金融商品について次の2点を質問したが、いずれもFASB案よりIASB案を支持するという意見が多数を占めた。

Q6 金融資産の評価

IASBは売買目的でない債券やローンの一部に償却原価法を適用することを認めていますが、FASBはこれらの商品も時価評価することを求めています（OCI（その他包括利益）に計上、実現時にリサイクリングする）。IASB案とFASB案のどちらを支持しますか。

A 金融資産の保有目的を勘案したIASB案を支持する。	63.5%
B 全ての金融商品を時価評価するFASB案を支持する。	32.3%
C その他	4.2%

Q7 持ち合い株式の評価

IASBは持ち合い株式はOCIで時価評価することを提案しています（売却時にリサイクリングはしない）。FASBは全ての株式を時価評価し、評価損益をP/Lで認識することを提案しています。IASB案とFASB案のどちらを支持しますか。

A 戦略的な理由で保有する持ち合い株をP/Lで時価評価すると当期利益の振れが大きくなるのでIASB案を支持する。	38.3%
B 基本的にIASB案を支持するが、リサイクリング（売却損益はP/Lで認識する）は行うべきである。	37.2%
C FASB案を支持する。	19.9%
D その他	4.6%

* メールアドレスを登録している検定会員17,363名を対象に調査。回答者690名、回答率4.0%。アンケート調査の結果は、<http://www.saa.or.jp/account/account/enquete.html>に掲載。

再分類の禁止（質問16）

上述のとおり、我々は金融商品は保有目的を勘案して評価すべきだと考えている。従って、ビジネスモデルの変更によって保有目的が変わった場合には当然再分類すべきであると考えている。

その他のコメント

多くの日本の財務情報利用者は、IASBとFASBとのMoUに基づくconvergence作業にも関わらず、金融商品会計という重要なプロジェクトにおいて上述のようなdivergenceが生じていることを深く懸念している。米国の財務情報利用者に時価評価支持者が多いことは承知しているが、世界の利用者が全てそうした意見に同調している訳ではない。FASBは米国の会計基準設定者であると共に、世界で唯一の会計基準をIASBと共に開発している。金融商品会計基準についても、広く世界の関係者の声を聞き、最終的にconvergenceが達成できるような判断をされるよう期待している。

以 上